

高輪大木戸ゲートウェイを歩く

文・写真 林 莊祐
(旅記者)

JRの新駅「高輪ゲートウェイ」が山手線と京浜東北線の品川―田町間に3月14日開業した。珍しいカナ駅名が話題で、改めてこの地の歴史名勝に思いを馳せるきっかけとなっている。山手線は1971年の西日暮里に次ぎ半世紀ぶり30番目の新駅。快速も停まる京浜東北線は2000年のさいたま新都心以来20年ぶりの駅誕生だ。2年前に一般公募した名称は「高輪」が最も多く「芝浦」「芝浜」が続き「高輪ゲートウェイ」はさほど多くなかった。JR東日本は「江戸の玄関口として賑わいをみせた地であり、明治時代には地域をつなぐ鉄道が開通した由緒あるエリア」と歴史的背景を示し、玄関、入口、関門、通路の意味があ

分弱、約13ヘクタールの再開発予定地に建設された。所在地は港区港南二丁目。東方面が東京湾、歴史豊かな町並みは駅西側で至近距離に国指定史跡「高輪大木戸跡」がある。かつての街道の要所。甲州街道の四谷大木戸は新宿御苑の「大木戸門」や四谷大木戸郵便局、大木戸坂下交差点など名前だけ残り、中山道の板橋大木戸は跡形もない。史跡として現存するのは高輪だけだ。江戸時代、道幅約10メートルの東海道の両側に高さ3メートルを超す石垣を築き、柵と門を設け夜間通行止めで治安と交通規制にあたった。関所よりゆるい規制だったそうだが、まさに江戸の南玄関口だ。当時のガイドブック「江戸名所図会」に載る「高輪大木戸」図



海を見ながら品川宿へ向かう広重画「高輪大木戸」

る「ゲートウェイ」に決めた。「世界中から先進的な企業と人材が集う国際交流拠点の形成を目指し」と格調高く「過去と未来、日本と世界、そして多くの人々をつなぐ結節点として、街全体の発展に寄与するよう



江戸のゲートウェイ「高輪大木戸」史跡、石垣の左手前が海側、向こうは旧東海道、国道15号

選定」したという。未来を見据え国際化の要としてカナを使う意味を込めた。「高輪玄関口」駅じゃ似合わないのだろう。

新駅は品川から0.9キロ、田町から1.3キロあたり。品川車両基地の見直して創出する東京ドーム3個

は、石垣の脇を伊勢参りなど東西行き交う旅人や送迎する男女たち、馬や駕籠を描く。茶屋の賑わいに、興じる人びとの表情がおもしろい。物売りの掛け声も聞こえてくるようだ。広重画も海に面した東海道の石垣を通り抜ける姿を臨場感豊かに表現する。幕末期に伊能忠敬は高輪大木戸を全国測量の基点にしたという。

史跡は現在、第二京浜の国道15号・泉岳寺交差点の田町寄り、都営地下鉄浅草線・泉岳寺駅の真上にある。駅の階段を上るとすぐ目の前に、重厚な石積みが歩道に大きく張り出している。案内板に「数少ない江戸時代の産業交通土木に関する貴重な史跡」とあり、歴史を残す意味からも、



日本橋から6km

石垣模様





高輪大木戸 江戸名所図会



新宿御苑 大木戸門



「史蹟 高輪大木戸跡」石碑



高輪大木戸跡 旧東海道信号

新駅はなぜカタカナかといった疑問や「高輪」「高輪大木戸」駅を推す声があるのもうなずける。石垣の脇に「史蹟 高輪大木戸跡」の石碑が建ち、「史蹟名勝天然記念物保存法ニヨリ 昭和三年二月 文部大臣指定」の文字がくつきり。同保存法の「記念物」は戦後施行の文化財保護法で「記念物」とした。広重画のように現代も街道ウォーキングを楽しむ人たちが行き交う。近くの泉岳寺で忠臣蔵・赤穂浪士

の墓参りのあと、街道筋の高輪神社、車町稻荷神社、御田八幡神社など寺社名勝を巡り歴史の流れを学ぶ。日本橋を起点とする東海道は、いま銀座、新橋、三田、川崎から横浜駅手前の青木橋まで国道15号と呼び、大木戸跡は日本橋から6キロの地点だ。国道1号は日本橋から東海道を離れ、皇居前、桜田通り、第二京浜を経て青木橋で15号を吸収し、京都へ向けて以西が東海道になる。

JR高輪ゲートウェイ駅



旅びと2020(2020年5月16日発行)掲載



旅びと 2020 「日本の旅」応援号

[発行日] 2020年5月16日
 [発行人] 中尾 隆之
 [発行] 日本旅のペンクラブ
 〒183-0041 東京都府中市北山町3-3-18 田中哲夫方
 TEL&FAX : 042-574-8601
 E-mail : info@tabipen.jp
 [編集委員] 飯出敏夫、いからしひろき、石井宏子、井上智明、
 土井正和、とがみ淳志、野水綾乃、望月崇史、三宅義隆
 [デザイン] 進藤賢二
 [印刷] (株)ミヤセ

このコピーは「旅びと2020」掲載記事にカラー写真などを追加し編集しました(林)